平成２年度　普及区域指導活動記録

都道府県名　沖縄県
専門技術員室名称　沖縄県水産業改良普及所専技室
普及区域　本島一円

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
企画事業	1. 普及職員連絡協議会	6月7日 8日 10月4日 5日 3月14日 15日	普及所	普及職員		若い漁業者育成確保促進事業に関する計画検討と予算及び各担当地区ごとの普及課題についての意見交換を行なう。 さらに、効率的な普及活動を展開するために、普及活動計画樹立にあたっての考え方や活動方法について職員間の情報交換を行なう。	
	2. 漁業士活動の推進	研修講座 9月28日 全国研究会 11月29日 30日	普及所 鹿児島県	漁業士	全漁連 鹿児島県	□ 平成元年11月10日に、沖縄県漁業士会が結成された。平成２年度は、漁業士活動に対する指導助言にあたる。 (1) 全国漁業士実践活動研究集会への参加（青年漁業士５名参加）。詳細については、研修会報告及び事業報告書参照） (2) 漁業士認定事業に係る研修講座の実施。テーマは、地域漁業及び青壮年部活動のあり方について、集団討議を行う。（講座資料別紙）	
	3. 漁協青壮年部、部長、事務局会議	3月20日	普及所	正副部長 事務局 （漁協職員）	市町村、漁協	各青壮年部の部会設置及び課題活動の取り組み状況や、組織のみなおし等移動相談をとおして、青壮年部活動の活性化を図る。	

事業区分	課　　題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
						平成２年度の部長、事務局会議では、３年度の部会、班毎の実践活動へ向けての課題設定や計画作成等意見交換を図るとともに、部会、班の未設置の青壮年部については、設置へ向けての取り組みを強化したい。	
企画事業	4. モズク養殖生産者会議	10月30日	普及所	生産者	市町村、漁協	生産者間の意見交換の場となればと、スタートして、平成２年で４回目になる。生産者の皆さんが年１回の会議を楽しみにしていることや、モズク養殖をとおして、人間的な触れ合いが感じられることで生産技術をこえた交流の場となっている。会議は、平成２年10月30日午後１時30分より、水産改良普及所会議室で行われた。会議では、各地区の生産状況報告（14漁協60名参加）を受けたあと、事例報告として、①本部地区における三段階養殖の必要性について、指導漁業士、我部政祐氏（本部漁協）による報告があり、さらに②宮古、狩俣地区における、主に糸モズクの養殖について生産部会長、川満寿明氏（平良市漁協）により報告があった。 それぞれの事例報告を受けた後に、全体討議が行われた。その中で、本部地区で実施されている、三段階養殖の必要性について、昭和62年度に調査報告（水試、普及所）されているが、何故、育苗漁場、中間育成漁場、本張り漁場ともに、生育のちがいがみられるのか経験的に、潮流	

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
						や底質のちがいによるものではないかといわれているだけで、体系的な調査研究までにはいたっていない。したがって、今後の調査研究の方向として客観的に把握された環境条件（客体環境）と生物現象（主体的環境）との関連性を体系的に探究し検討する必要がある。また、狩俣地区の糸モズク養殖については、種保存の困難性、さらに糸状体採苗網が本モズクに変わる話等、糸モズク全般についての質疑が多かった。その他、若モズク対策等についての問題提起もあったので、その考え方等『普及だより第27号』及び事業報告書等参照されたい。	
企画事業	5. ヒトエグサ養殖生産者会議	9月25日	普及所	生産者	市町村、漁協	ヒトエグサ養殖は、天然採苗を主体に養殖が始められて30数年になるが、地域によっては、まだ安定生産までにはいたってない。そこで、生産者が一堂に会し、生産技術を中心に意見交換を行い養殖技術の向上を図るべく、同会議が平成２年９月25日午後１時30分から水産改良普及所会議室で行われた。 平成２年度は、意見交換の共通テーマとして、(1)天然採苗から芽出しまでの養殖管理について、(2)収穫後の処理技術について（事例報告として、恩納漁協における収穫後の海上処理技術について、青年漁業士島袋一氏）による発表があった。(3)販路拡大について（伊平屋漁協の西銘組合長より産地間提携についての提案が	

事業区分	課　　題	実施時期	地区又は場　所	普及対象	協力者・団体等	普　及　活　動　経　過	翌年度への展開事項
						あった。）それぞれ３課題について、活発な意見交換が行われた。全体討議の結果として、天然採苗に依存しているため、相変らず地域差や網による着生生育に差異が大きいことが生産活動の大きな要因となっている。『アーサ会議での最大の課題である人工採苗技術開発が北中城村役場の助成により同支部生産グループで平成３年より取り組む。』	
試験事業	糸モズクの糸状体保存及び養殖試験（技術改良試験）	４月～３月	知　念久米島	生産部会生産グループ	市町村、漁協	難かしいとされていた、糸状体保存も採苗時期を３月～４月と早期に実施することにより、多量の胞子体を得ることができる。これまでは、糸モズク、本（本とは、オキナワモズクのこと、以下、本と言う。）モズクの収穫後の６月以降に採種作業は集中していた。この時期は、水温が30℃以上と高水温のため、特に糸モズクの遊走子の採種が十分にできなかったことによるものである。したがって、糸モズクの採種時期は、比較的水温（22°～24℃）が低い、３月～４月にかけて実施し、保存に入る、５月以降にかけては、水温の上昇を確認しつつ、できるだけ高水温にならない場所を選定し、保存管理を10月頃まで行う。同時に照度の管理についても、本モズクのように8,000 LUX～10,000 LUXの高照度では、生育を悪くする結果になるので、糸モズクの場合は、4,000 LUX以下の低照度下での採種保存が適している。また、夏場の期間を	

事業区分	課　　題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
試験事業	糸モズクの糸状体保存及び養殖試験（技術改良試験）	4月～3月	知念久米島	生産部会生産グループ	市町村、漁協	クーラー室で保存することによって、雑藻対策等可能であり、安定した保存ができる。この場合の水温は、19°～21℃ 糸状体を多量に採種し保存する技術はそれほど難かしいことではない。ただ、糸状体採苗の段階で育苗した種網が本モズクに変わる現象が現実にみられることから、その生態的な調査研究が急がれる。このような現象については、数年前から現場では経験的に確認されている。宮古の狩俣地区では、水温が18°～21℃前後が生育適水温で糸状体から本モズクに発芽する現象も非常に少ないようだ。平成2年度は11月から12月にかけて、22°～24℃と高めのためか、糸状体からの発芽はほとんど本モズクに変わったため、藻体採苗も1ケ月おくれの1月に入って実施されたが母藻となる糸モズクは非常に少なかったようである。 このような現象はあたたかい年に多くみられることから、物理的な容体環境の変化により形態的変異がおこるのではないか。したがって、糸モズクは、『ナガマツ目モズク科のモズク属ではなく、同目のナガマツモ科のオキナワモズク』に属するのではないかと思われる。生理学や遺伝学の面からも専門家による究明がまたれる。	

事業区分	課　　題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
一般指導事業	1. 養殖漁場調査指導 (1) モズク養殖漁場調査	7月17日	鳩間島（八重山）	漁業者	市町村、漁協八重山支庁農水課	地域活性化事業の一環として、八重山漁協が新規事業として進めているモズク養殖に係る漁業調査を鳩間島周辺礁池内において、潜水による観察調査を実施した。観察結果は、下記の通りであった。 (1) 育苗池（中間育成漁場）は、島の北側水深1.5m～2m礫地帯が適当であろう。 (2) 本張り漁場は、島の南側（漁港側）の水深2m～3mの砂利地帯が適当であろう。さらに、天然モズクの生育地である南側モバ地帯はシート採苗（天然自生体）漁として適当であろう。（シート採苗は早期採苗を必要とする場合に行う。）	
	(2) ヒジキの株移殖に伴う生育及び漁場調査	1月21日	与那原	漁協婦人部	市町村、漁協	漁港工事により、ヒジキの生育地帯の一部が防波堤に囲まれた状態になっているため、その部分のヒジキの生育に影響を与えているとのことで、株移殖を前提とした観察調査を実施した。1月21日現在、生育の良い場所で14cm～18cmに伸長している。例年だと同時期で25～30cmの生育がみられることから、今年は生育がかなりおそい。また、問題の北側漁港工事現場附近の生育帯は防波堤に囲まれているため、潮だまり状態となり、生育も4～8cmで生育不良となっている。株移殖は、新芽が出る10月頃に実施する予定である。	

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
一般指導事業	2. 漁協青壮年部育成指導（担い手育成） (1) 巡回移動相談	4月～3月	県下13地区の青壮年部のうち、9漁協青壮年部について実施した。 国頭、石川沖縄市、伊平屋、恩納勝連、久米島、具志川那覇市 ――― 伊江、知念、糸満、港川未開催	青壮年部	市町村、漁協県漁業士会	平成2年度は、13漁協青壮年部のうち9漁協青壮年部について移動相談を実施した。4漁協青壮年部については未開催である。（事務局に問題あり） □ 相談内容は (1) 部会、班毎の課題の検討及び実践活動について (2) 組織の強化（主に組織の再編を必要としている青壮年部の指導） (3) 事例報告（普及所及び漁業士会による各地区に即した事例報告を行う） それぞれ、具体的内容については『平成2年度の巡回移動相談にみる漁協青壮年部活動』を参照されたい。 平成2年度の部長事務局会議は3月20日開催。 □ 担い手育成事業の一環としてのリーダー研修会において、「漁協青壮年部活動の現状と問題点」と66式による全体討議（テーマ：漁協青壮年部活動を永続的に発展させるには、今後どのような取り組みが必要か）を行った。 。全体討議内容は、次のように集約される。 グループ活動を永続的なものにするためには、特に何が大切か。 (1) 結成当時は活発に活動したグループが年数がたつにつれて活動がにぶくなることをよく聞く。 (2) その原因はいろいろあるが、「例えば」部員の協力が得られない。し	

事業区分		課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
							たがって、課題を取り上げても解決できない外部指導者（県、漁協、漁連、普及所）の協力と理解が得られない等いろいろ問題はあると思うが、もっとも大きな原因はグループの指導者の考え方、あり方が問題ではないか。したがって、中核体（中心）となる活動家（リーダー）を日ごろから育成し（万年部長ではなく）グループ活動についての意志の疎通を図り、各人に仕事を与える。（部会、班制を導入して、役割分担をする）協調性を養い、批判する力を養っていくという態度がグループ活動を発展させていくための大きな要素になるのではないか。	
研修事業	普及員	普及員一般研修	10月4日	普及所	普及員	専門技術員	(1) 糸モズクの種保存及び養殖について（技術改良試験関連）	
			3月14日	普及所	普及員	専門技術員	(2) 巡回移動相談にみる漁協青壮年部活動について	
		漁業技術一般研修	5月10日	八重山	漁業者	専門技術員	(1) 糸モズク種保存についての講習会の実施	
			6月5日	本部	生産部会			
			7月11日	勝連	〃			
			8月14日	恩納	青壮年部			
			8月16日	名護	生産者			
			8月22日	宮古	生産部会			
			8月28日	宜野座	〃			
			9月12日	久米島	〃			
			9月15日	伊是名	〃			
			7月26日	伊平屋	モズク部会		(2) クビレオゴノリの養殖について	
			12月7日	具志川	青壮年部		(3) バイ貝漁業と増殖について	
			2月13日	北中城	生産部会		(4) ヒトエグサの人工採苗について	
			4月6日	具志川	青壮年部		(5) クビレヅタに着生、繁殖をする群体ジデムニ科の駆除について（琉大海洋学科による）	

平成３年度　普及区域指導計画

都道府県名　沖　縄　県
専門技術員室名称　沖縄県水産業改良普及所専技室
普及区域　本島一円

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
	1. 普及職員連絡協議会	5月、9月、3月	普及所	普及職員		普及活動計画樹立にあたっての考え方や活動方法について、定期的に情報交換を行うことにより、効率的な普及活動を展開する。 平成３年度は、新規に全国普及協と資源課による改良普及事業のマニュアル作成に向けての対応。	
	2. 普及だよりの発行	5月、9月、12月3月	普及所	青壮年部生産グループ	市町村、漁協	現場との情報活動の一環として発行する。年４回発行予定。	
企画事業	3. 漁業士活動の促進	4月～3月	普及所	県漁業士会	市町村、漁協	前年同様、沖縄県漁業士会活動を促進するための指導助言に当る。	
	4. 漁協青壮年部、部長、事務局会議	2月	普及所	青壮年部	市町村、漁協	移動相談終了後に部長、事務局会議を開催して、移動相談の総括と活動状況について意見交換を行う。宮古、八重山についても計画的に実施したい。	
	5. モズク養殖生産者会議	10月	水産会館	生産者	市町村、漁協	モズク生産者にとっては、年１回の唯一の交流の場となっており、平成３年度も、前年同様、生産者会議を開催し生産者間の連携を図りたい。	

事業区分	課　　題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
企画事業	6. ヒトエグサ養殖生産者会議	9月	普及所	生産者	市町村、漁協	前年同様、安定生産が図られるように年1回、生産技術面を主体に意見交換を実施する。特に、平成3年度はヒトエグサ人工採苗技術確立に向けての実践事例報告（北中城生産グループ）と産地間提携の可能性について意見交換を行う。	
試験事業	1. ヒトエグサ人工採苗技術開発試験（技術改良試験）	4月～3月	北中城	生産グループ	市町村	経営体数は10経営体で、年間10～15トン生産されている。養殖ヒトエグサは、天然に比べ値が良く（kg：3,500円～4,000円）需要をみたしきれない状況にある。このように、県下では、有用海藻類として養殖されているにもかかわらず安定した供給体制ができない、理由は良好な自然の種場（埋め立てや赤土汚染による）が少なくなったことで、計画的に採苗ができなくなったからである。方法は、グリセリン＋ジメチルスルホキシド添加による「遊走子嚢の凍結保存」（八重山支場で餌料藻の凍結保存に成功している。）と平行して、三重方式の通常の処理保存についても実施する。 □ 凍結保存については、(1) 普及所にて接合子板による成熟した遊走子嚢を培養する。(2) 培養した遊走子嚢を八重山支場にて凍結保存する。(3) 融解後の採苗（遊走子付）は普及所にて実施する。 □ 通常保存については、(1) 3月～4月にかけて成熟藻体を使用しての接合子付けの実施。(2) 5月以降9月下旬	

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
						まで、遊走子嚢の培養。(3) 10月に入って、ノリ網により遊走子付けの実施 (4) 10月以降、養殖場への種網の展開（1月頃まで生育管理）	
試験事業	2. 糸モズクの糸状体変異による生態調査試験	4月～3月	知念	生産グループ	市町村、漁協	通常保存については、北中城においても、改良試験と平行して実施する。（3月に入って、接合子付に向けて藻体の成熟度調査が開始されている。） 糸状体から、本モズクへの形態変化が平成2年度の技術改良試験で確認されたので、その実態を究明すべく養殖漁場での生態調査も併せて実施する。	
	3. バイ貝の実態調査及び増殖試験	4月～3月	金武、石川、具志川	漁業者	市町村、漁協	金武湾に面した石川漁協及び金武漁協では、5年前に移殖放流を行い、現在禁漁となっている。解禁日設定へ向けての漁期や産卵期の把握のための実態調査を実施するとともに、増殖方法についても検討したい。関連調査が1981年に中城湾において実施されている。	
一般指導事業	1. 海藻類の養殖漁場調査 (1) モズク (2) ヒトエグサ (3) ヒジキ (4) オゴノリ } 漁場調査	4月～3月	県下一円	生産者	市町村、漁協	前年度と同様、必要に応じて実施。	

事業区分		課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
一般指導事業		2. 漁協青壮年部育成指導（担い手育成）	4月～3月	県下、14地区の青壮年部	青壮年部	市町村、漁協	前年度と同様、移動相談を実施して、漁協青壮年部の組織の強化と、部会、班毎の課題設定について援助する。特に、平成3年度は市町村と漁業士会との連携による指導体制の確立。	
研修事業	普及員	普及員一般研修	9月 3月	普及所	普及員	専門技術員	(1) ヒトエグサ人工採苗技術開発試験報告（遊走子嚢の凍結保存及び止水保存について） (2) 糸モズクの糸状体変異による生態調査試験報告（室内における糸状体保存と生態調査について）	
	漁業者	漁業技術一般研修	4月～3月	北部、中部、南部宮古、八重山	生産者 青壮年部	専門技術員	(1) モズク養殖及び品質管理に関すること。 (2) ヒトエグサの養殖及び品質管理に関すること。 (3) ヒトエグサの人工採苗技術に関すること。 (4) クビレヅタ養殖とホヤ対策に関すること。 (5) オゴノリの養殖に関すること。 (6) ヒジキの株移殖に関すること。	

平成２年度　普及区域活動記録

都道府県名　沖縄県
改良普及員室名称　宮古支庁農林水産課
普及区域　宮古地区

事業区分	課題	実施時期	地区及び場所	普及対象	協力者	普及活動の経過	翌年度への展開事項
企画事業	宮古地区漁村青少年協議会	6月 9月 12月	平良市 伊良部町 平良市	後継者	宮古水産高校 市町村、漁協	第１回（６月25日） 議題１．平成２年度沿岸漁業担い手育成事業について ２．平成２年度普及事業予算について ３．少年水産教室の廃止について ４．平成２年度漁村青壮年婦人活動実績発表大会について ５．浮魚礁（パヤオ）漁業技術交流について ６．その他 第２回（９月14日） 議題１．平成３年度沿岸漁業担い手育成事業計画立案について ２．平成２年度漁業士育成事業について ３．平成２年度漁村青壮年婦人活動実績発表大会について ４．平成２年度学習事業について ５．伊良部町漁協婦人部活動について ６．その他 第３回（12月７日） 議題１．平成３年度沿岸漁業担い手育成	

事業区分	課題	実施時期	地区及び場所	普及対象	協力者	普及活動の経過	翌年度への展開事項
						事業計画決定について 2. 平成2年度沿岸漁業担い手育成事業実施状況について 3. 平成3年度漁業土育成事業について 4. その他	
	普及職員業務連絡会議	6月 9月 3月	名護市 糸満市 座間味村	普及職員	市町村、漁協	第1回（6月7日～8日） 議題1. 平成2年度沿岸漁業担い手育成事業実施計画について 2. 普及課題報告について 3. 平成元年度試験事業及び地域営漁計画事業報告について 4. その他 第2回（9月19日～20日） 議題1. 平成2年度実績発表大会について 2. 平成2年度普及事業及び普及課題中間報告 3. 平成3年度沿岸漁業担い手育成事業計画について 4. 平成3年度沿岸漁業改善資金需要調査について 5. 今後の普及課題について 6. その他 第3回（平成3年3月14日～15日） 議題1. 平成2年度普及事業報告について 2. 平成3年度普及事業計画について 3. 沿岸漁業改善資金（需要額調査）	継続

事業区分	課題	実施時期	地区及び場所	普及対象	協力者	普及活動の経過	翌年度への展開事項
						の取扱いについて 4. 平成2年度普及課題実施報告	
	沖縄県沿岸漁業改善資金運営協議会	6月 10月 1月	糸満市 〃 那覇市	運営委員	市町村、漁協	第1回（6月27日） 貸付審査　申請47件（宮古地区 自動操舵1件、低燃費機関1件、カラー魚探3件） 第2回（10月29日） 貸付審査　申請32件（宮古地区 低燃費機関1件） 第3回（1月25日） 貸付審査　申請16件（宮古地区 低燃費機関1件、カラー魚探1件）	継続
	漁業士等育成事業	7月	宮古地区	漁業者	市町村、漁協	漁協名　漁業士種別　推薦件数 平良市漁協　指導漁業士　1人 伊良部町漁協　指導漁業士　1人 青年漁業士　1人 池間漁協　指導漁業士　1人	継続
調査事業	漁業公害調査	4～3月	与那覇湾	漁業者	市町村、漁協	赤土汚染調査を月1回実施した。別途取りまとめて報告済み	継続
	魚類養殖調査	4～3月	伊良部町	漁業者	市町村、漁協	今回はシモフリアイゴの養殖について、成長及び水質について調査した。詳細は平成2年度水産業改良普及活動実績報告書に掲載してありますので参照して下さい。	継続

事業区分	課　　題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者	普及活動の経過	翌年度への展開事項
調査事業	クビレヅタ試験養殖調査	4月～3月	伊良部町	漁業者	市町村、漁協	4月に母藻をアンドンカゴに入れて伊良部島と下地島の間の水導域に垂下。その後赤土がカゴ外部全面に付着。中のクビレヅタは成長不良となり7月21日時点でほとんど流出したのを確認した。水質については9月6日に養殖場の周囲4地点を調査した結果、水温28.0～28.9℃、008.5～11.9㎎/ℓ、塩分25.8～31.2％。	継　続
研修事業	水産業改良普及員一般研修	10　月	糸満市	普及員	専門技術員	研修課題「沖縄県における増養殖技術開発の状況」 「イトモズクの採苗及び糸状体保存のこれまでの知見」	継　続
	技術交流会	5　月	伊良部町	青年部	市町村、漁協	交流課題「パヤオ漁業と青年部活動」 受入グループ　伊良部町漁協青年部 研修者　沖縄市漁協青年部　1人 石川市漁協青年部　1人 久米島漁協青年部　1人 交流概要 パヤオ漁業における漁法としては曳縄、流し釣、そして一本釣があって、これらの技術的な交流がおこなわれたが、特に、一本釣については散水技術を取り入れているところに大変関心を持ったようで、散水技術の細かい部分について学んだことが、大きな収穫であったと聞いている。	継　続
	学　習　会	8　月	伊良部町	漁業者	市町村、漁協	演題「沿岸漁業の担い手と後継者の役割」 講師　東京水産大学助教授　加瀬　和俊	継　続

事業区分	課題	実施時期	地区及び場所	普及対象	協力者	普及活動の経過	翌年度への展開事項
						講演概要 沿岸漁業への新規就業タイプとしては、学卒と同時に漁業者である父親といっしょになって従事する者、一時的にサラリーマンを経験したのち、父親の引退に伴って家業を継ぐためにUターンしてくる者、あるいは兄弟で共同して就業する者など、いろいろなタイプがある。しかし、沿岸漁業に新しく就業するには、漁場の狭さゆえに大変きびしい面がある。	
指導事業	漁協経営指導	4～3月	管内全域	漁協役職員	市町村	1. 営漁指導 営漁意向調査アンケート票を作成、各漁協とも20代2人、30代2人、40代2人、50代2人、60代2人の計10人を選抜し、アンケート票を配布、回収集計後パンフレットを作成、漁協役職員に配布指導にあたった。 2. 経営指導 各漁協の過去6年間（昭和59年度～平成元年度）の業務報告書を参考に、主として自己資本利益率について分析、パンフレット「漁協経営の現状」を作成、漁協役職員に配布指導にあたった。	継続
	漁家経営指導	4～3月	管内全域	漁業者	市町村、漁協	組合員を対象にパンフレット「やさしい漁家経営診断」を作成配布、漁家経営向上のための営漁日誌の記帳等併せて分析の必要性を指導した。	継続

事業区分	課　　題	実施時期	地区及び場所	普及対象	協力者	普及活動の経過	翌年度への展開事項
	グループ活動育成指導	4～3月	伊良部町	青壮年婦人	市町村、漁協	1. 伊良部町漁協青年部活動指導 パンフレット「漁協と協同運動」作成配布。その中でグループ活動の例、活動方法などについて解説指導した。 2. 伊良部町漁協婦人部結成指導 伊良部町漁協の婦人部結成を宮古農業改良普及所と連系して指導した。併せてこれからの婦人部活動のあり方等についても学習会をこれまで3回もった。現在宮古農業改良普及所の指導の基活動中。	
	巡回指導	4～3月	管内全域	漁業者	市町村、漁協	経営及び漁業技術の相談、日誌の記帳並びに事業計画等現場での巡回指導にあたった。	継続
	沖縄県漁村青壮年婦人活動実績発表大会	1月	那覇	青壮年婦人	市町村、県漁連、漁協 その他木産関係団体	発表課題　かつお・まぐろの流通改善について 出場グループ　伊良部町漁協青年部 発表概要 浮魚礁（パヤオ）漁業の導入と共にかつお、まぐろの水揚が増大し、魚価が低迷した。その解決策として鮮魚出荷のための鮮度保持技術の研究、二次加工品の開発等が取り組まれた。こうしたわたくしたち青年部の取り組みがあったからこそ、現在の浮魚礁（パヤオ）漁業は、維持できているものと自負している。	継続
	イトモズク養殖指導	4～3月	狩俣	平良市漁協狩俣生	平良市漁協	第1回目沖出し（10月18日～20日） 一人当り30枚の沖出し割当。36人中3	継続

事業区分	課　　題	実施時期	地区及び場所	普及対象	協力者	普及活動の経過	翌年度への展開事項
				産グループ		人（網数90枚）が成功、これも順調な芽出しとはいえず、発芽率60%、11月28日時点で約3㎝の伸び。第2回目沖出し（第1回目の沖出し後2週間経過）この回でも第1回目に成功した3人の網が発芽。二人が30枚づつで、一人が20枚ですので、合計80枚が成功。第1回目と同じく発芽率60%、11月28日時点で発芽の確認ができる程度。 第3回目の沖出し（第2回目の沖出し後約2週間経過） 11月28日時点で発芽の確認できず。なお8月23日に瀬底専技が来島、狩俣生産グループを対象に、イトモズクとフトモズクの盤状体の見分け方、発芽条件の違いなどについて学習会を開いた。	
	クビレヅタ養殖指導	4～3月	与那覇湾	平良市漁協、久松漁業研究会	平良市漁協	今年の生産量18ｔ。養殖物と天然物がほぼ半々。今年は地植えを実施したこともあって、また天然物の豊作がからんで生産量が大きく伸びた。養殖物（カゴ垂下式）の問題点として天然物との違いは、水産生物の付着があり、それを防ぐためにたえず掃除をしなければならず、そうするとひんぱんにカゴを動かしているせいか、クビレヅタの伸びが悪い感じを受ける。	継　続
	ヒメジャコ放流指導	11　月	城辺町	平良市漁協、城辺地区	城辺町漁協	種苗提供　沖縄県水試八重山支場 受入月日　平成2年11月5日 受入個数　1万個	継　続

事業区分	課題	実施時期	地区及び場所	普及対象	協力者	普及活動の経過	翌年度への展開事項
				浦底漁業研究会		受入方法　ビニール袋に海水を入れ、酸素を封入。これをハッポースチロールの箱に入れふたをして輸送した。 川平（八重山）20分車→石垣空港30分飛行機→宮古空港20分車→平良市栽培漁業センター 種苗の大きさ　3㎜～5㎜（平均4㎜） 放流期日　平成2年12月17日～20日 放流方法　埋込式 放流場所　浦底地先（城辺町）	
	ミナミクロダイの放流指導		平良市 伊良部町 下地町	漁業者	宮古支庁 市町村、漁協	種苗生産　平良市栽培漁業センター 種苗放流数　120,000尾 放流場所　渡口の浜（伊良部町） 嘉手苅入江（下地町）	継続
	クルマエビ種苗放流指導		平良市 伊良部町	漁業者	宮古支庁 市町村、漁協	種苗生産　平良市栽培漁業センター 種苗放流数　450,000尾 放流場所　大浦湾（平良市） 佐和田の浜（伊良部町）	継続